

# サマースクール 2017～報告～

期日：平成27年8月8日（土） 場所：熊本県立盲学校



## ◆午前◆

### 〈視覚補助具活用〉

まず、教育的視機能評価や補助具使用時の視認力を確認し、普段の道具の活用の状況に合わせてグループに分かれて活動しました。

自分以外にも道具を使う友達がいることを知る安心感や、良い意味でのライバル心を持っていることを参加者の様子からうかがうことができ、仲間の存在の大切さを改めて知ることができた時間でした。サマースクールをきっかけに、今まで以上に普段から自分に合った道具を活用し、しっかり見ること、効率よく見ることが心掛けてほしいと思っています。



### 〈水泳教室〉

短い時間でしたが、一人一人の泳ぐ力を高めることを目標にしました。自分に合ったメニューに取り組み、水泳専門の職員からの確かなアドバイスを受けることで、周囲にもはっきりと分かる上達が見られました。子供たちは、とても嬉しそうな表情をしていました。保護者の方からは、「子供たちの自信につながった。」という声が聞かれました。

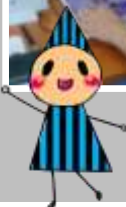


### 〈パソコン〉

パソコンとタブレットの画面を自分の目に合う状態にするための方法を学習しました。

前半は、PC画面の拡大表示機能の使い方、フォントサイズの設定、マウスポインタのデザインとサイズ設定を学習しました。

後半は、タブレットでパソコンと同様のことをしました。紙をスキャンしてPDFにする方法についても学習しました。



## ◆午後◆

### 〈デザート作り〉

小学生だけでなく、兄弟姉妹のみんなも一緒に夏のデザート「アイスクリームとかき氷」を作りました。氷と塩を入れた大きいボウルの中に、牛乳や卵などを入れた小さいボウルを入れ、交代しながらクルクル回し続けると、本格的なおいしいアイスができました。かき氷はそれぞれ好きな蜜をかけて食べました。支援する本校職員の話をよく聞いて、みんなで協力しあうことができました。とても楽しい時間になりました。



### 〈先輩講話〉

兵庫県から大橋さんにお越しいただき、子ども時代のこと、振り返ることができる今だからこそ感じていることをお話ししていただきました。お話の内容だけでなく、大橋さんの丁寧な話しぶりからも、何事にも一生懸命なお人柄が伝わってきました。印象に残った大橋さんの言葉を紹介します。

- ★特別支援学級にいと、交流学級の様子が見えず、学級の出来事をみんなと共有できずに困ることが多かった。担任の先生から交流学級の話を知ることができ、弱学の担任の先生と交流学級の担任の先生の連携が活発だとよかったのではないかと感じている。
- ★高校時代は、盲学校で学んだ。本当の自分を出して、意見を言えるようになった。「障害を持つ仲間の大切さがわかった3年間」だった。
- ★「どんな支援が必要なのかを自分自身が理解していなければ、それを周囲の人に言うてはいけないし、わかってもらえるはずがない」と思っていたが、「一緒に考え、工夫してくれる人がいれば、ただ悩みを打ち明けてみても良いのかもしれない」と感じることはできたのは大きな収穫だった。
- ★通常の学校・大学院で学習できたこと、拡大を頼まなくてもいろいろな書類を確認しながら業務を行えたことなどは、補助具を適切に使用することのできる土台があったからこそ実現したのだと思う。
- ★つながった人は一生の宝

## ◆先生/関係者対象◆

## ◆機器展示◆

### 情報交換会

小学校の先生、眼科からお越しいただいた視能訓練士の方々に日々の子供たちとのかかわりの中で悩んでいる点や疑問に感じている点について、気軽に意見交換ができる会を行いました。助言者として午後の講師の大橋さんにも参加者のみなさんのお話を聞いていただきました。小学校の先生は、大橋さんに「それで（現在の指導の方法）大丈夫だと思います。」と言っただけで安心したと感想を話していました。



地元の眼鏡店の大宝堂様、ヨネザワ様、メーカーからナイツ様、東海光学様に御協力いただきました。



昨年は、熊本地震の影響で「サマースクール」は「オータムスクール」となり、2年ぶりに「サマースクール」をこの夏に開催することができました。お忙しい中、御参加いただき誠にありがとうございました。一人一人のお子さんの成長の様子を感じられたり、新しい発見をしていただいたりと嬉しい場面に遭遇し、本校職員も有意義な時間を過ごさせていただきました。また来年も「サマースクール」でお会いできるのを楽しみにしています。